

# 資格取得にチャレンジすることが 自信とスキルアップにつながる

— 技術士（建設部門：河川、砂防及び海岸・海洋分野） —

### 1. 受験の動機、経緯

技術士資格は地方公務員とは無縁のものと思っていましたが、ある職場において何名かが既に資格を取得され、あるいは受験勉強に努力されている姿に触れるにつれ、自分も一度チャレンジだけはしてみようという気になりました。もちろん、資格をとったからといって公務上の役割や給与手当が増える訳ではありません。年々低下する暗記力と闘いながらなんとか一次試験を突破したものの、記述式の二次試験にはかなりの不安がありました。しかし、結果はどうあれ資格取得へチャレンジする意欲と受験勉強が自己啓発につながることで、技術職としてのこれまでの経歴・経験が知識・技能としてどれだけ身についたのか試してみたいという気持ちもあり、続いて二次試験に挑むことにしました。結果的に、2回の挫折を経て3回目に合格しています。

### 2. 筆記試験における留意点や学習のポイント

二次試験は択一式と記述式の出題がありますが、1年目、2年目は択一式の突破に四苦八苦しました。4月に受験申込をしてから市販の参

考書を買込み、用語と過去問題を中心に択一式の勉強を始めたのですが、私流の勉強方法は出勤前のトイレの中での15分間の読書タイムで、過去問を毎朝5問程度ずつといった感じです。せめて半年くらい前からコツコツと勉強していれば記述式の鍛錬に時間を割く余裕もできたのですが、受験申し込みからの3か月程度では択一式の勉強だけで精いっぱいだったように記憶しています。結局、1年目は勉強の要領がつかめず択一式でつまづく結果となりました。

記述式に関しては、参考書に示された論文の書き方指南を拠りどころにしました。専門知識が問われる選択科目Ⅱ、課題解決能力が問われる選択科目Ⅲとも、過去の出題の傾向、解答のポイント、論文中の「見出し」の付け方、記述例を参考に、想定問題について解答の方向性を見出しを整理することで作文につなげるイメージを何度か練習しました。字数と時間を意識して実際に論文を書いてみるといった余裕はありませんでしたが。

出題の傾向への対策については、自身の経歴から得意分野は河川計画であるため、二次試験は河川、砂防及び海岸・海洋分野を選択しまし

たが、河川以外の砂防や海岸・海洋、あるいは、河川でもダム等に関する専門的な論述は非常に困難です。選択科目Ⅱ、Ⅲとも少なくとも1～2問は河川に関する出題があることを期待し、得意分野に絞った準備をすることにしました。例えば、治水・防災に関しては、全国的にも大規模な水害が発生した時に新たな課題が顕在化すると、そのたびに国が専門家を交えた検証会議を立ち上げられています。そこでは課題の要因と新たな施策や取組が提言されますので、これらの報道発表資料等をホームページで確認し試験に臨むようにしました。実際、試験の前日にたまたまチェックした内容がそのまま出題されたラッキーな年もありました。

### 3. 資格取得後に役に立ったこと

資格取得したからといって職場での境遇が変わりはありませんが、自分にとって受験勉強の努力が報われたこと、経歴・経験から身についた技術力が認められたことが、今後も建設行政に携わっていくうえで少なからず自信につながったと思います。

また、合否よりも受験勉強そのものがスキルアップにつながったと思える部分も多く、択一式では建設業に切迫する課題の現状や環境問題などについて、普段は目にすることのない国土交通白書の統計データに驚き、認識を深められましたし、論文に悩んだことでは、仕事で障害に遭遇した場合にも、何が課題か、解決策は何かと、論理的な思考が自然に働くようになった気がします。



京都府 建設交通部 砂防課  
課長補佐兼係長  
かたぎ ともり  
樫 智徳

(取得した資格：技術士(建設部門：河川、砂防及び海岸・海洋分野)  
資格取得年度：平成29年度)

### 4. 受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

技術系職員として実績を重ねると、年々経験値は上がりますがその分記憶力は低下します。一次試験と二次試験必須問題ではこの記憶力との戦いとなりましたが、出題には必ず傾向があり過去問題の研究が最も近道だと思います。1回読んで覚えられないことが繰り返し勉強すれば案外身につくものだなということを実感しました。

また、論述は試験直前にいきなり練習してもなかなか上達は望めないと思いますが、長年続けている馬上、枕上、廁上の読書タイム(コミックを含む)が作文への抵抗を少なくし、キーワードをそれなりにつなぐ文章を書く訓練になっていたのかなと思います。

あとは、家族の手前、受験するからには何度でも挑戦し合格したいという執着心も、後押しになりました。